

## 「リレーションシップバンキングの機能強化に関する アクションプログラム」に基づく金融機関の取組み 実績等について

(\*実績については、管内金融機関合計)

### 1 金融機関の取組み実績

#### (1) 創業・新事業支援機能等の強化

##### 業種別担当者の配置等融資審査態勢の強化

実績			
業種別担当者の配置	14年度実績	15年度実績	16年度実績
	9名	11名	10名

##### 特色ある具体的取組み

地場の有望産業である観光、健康、環境等の業種別担当者を配置し、観光・健康・環境関連産業を営む中小企業及び個人事業主の支援・育成を目的とし、担当者の目利き機能を活用した無担保・無保証人融資商品を発売した。

##### 産学官とのネットワークの構築・活用等

実績			
産業クラスターサポートローン等	14年度実績	15年度実績	16年度実績
・つなぎ融資	実績なし	2件、56百万円	1件、14百万円
・プロパー融資	実績なし	実績なし	2件、83百万円

##### 特色ある具体的取組み

産業クラスター会員へのつなぎ融資やプロパー融資を実行した。

#### (2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化

実績			
ビジネスマッチングの成約件数			
	14年度末	15年度末	16年度末
	実績なし	59件	58件

## 特色ある具体的取組み

東京・熊本で開催された商談会にビジネスクラブ会員の参加支援を行い、商談成立 113 件の成果を挙げた(15年度:商談成立 59件、16年度:商談成立 54件)。また、16年12月、情報網を活用したビジネスマッチング(取引紹介サービス)を業務として開始した。

取引先企業に対する経営情報、ビジネスマッチング情報の提供、コンサルティング、研修支援等を目的とする関連会社を設立した。また、インターネット上で弁護士や税理士などの専門顧問団が無料で経営相談に応じる会員サービスの運営を開始した。

15年12月に第二地銀協加盟行ビジネス情報交換制度(B-net)がスタート、16年11月に九州地区第二地銀8行と連携した「九州金融情報ネットワーク(QF ネット)」を創設した。しんきんビジネス・マッチングサービス取扱いを開始し、3社を登録した。

## 実績

### 経営改善支援取組み先数の推移

15年度末まで	16年度末まで
680先	890先

### 経営改善支援取組み先数のうち、ランクアップ先数の推移

15年度末まで	16年度末まで
142先	276先

## 特色ある具体的取組み

15年10月に「経営改善支援チーム」を設置し、同チームと営業店が一体となって取引先中小企業の事業再生支援の取組みを開始、16年6月に「企業支援部」に組織再編し機能を強化した。

## (3) 早期事業再生に向けた取組み 企業再生ファンドの組成

## 実績

### 企業再生ファンドへの出資額

14年度末	15年度末	16年度末
実績なし	実績なし	50百万円

## 特色ある具体的取組み

取引企業の債権支援を目的として、ファンド運営・管理会社と業務協力協定書を締結し、県内の中小企業向けファンドを組成、また、国内の中小企業を対象とするファンドとの業務協定書を締結するなど、具体的取組みを開始した。

ファンド運営・管理会社と業務協力協定書を締結し、沖縄県を基盤とする中小企業を対象とした地域特化型事業再生ファンドを組成する等、具体的取組みを開始した。

## デット・エクイティ・スワップ、DIPファイナンス等の活用

### 実績

#### デット・エクイティ・スワップ

14年度末	15年度末	16年度末
実績なし	実績なし	3件、424百万円

#### デット・デット・スワップ

14年度末	15年度末	16年度末
実績なし	実績なし	5件、4,843百万円

## 特色ある具体的取組み

公庫等を含む地元金融機関が協調して、会社分割やDES等を活用した事業再生計画を策定し、吸収分割方式による過剰債務の分離を手始めに地元企業の事業再生をスタート。16年6月にはDESを活用した債権支援策を実施した。

企業再生の取組としてデット・デット・スワップの導入を図り、支援協議会との協調体制のもと債権支援策を実施した。

## (4) 新しい中小企業金融への取組みの強化

### 中小企業の資金調達手法の多様化

### 実績

#### 売掛債権担保融資

14年度末	15年度末	16年度末
1件、52百万円	8件、284百万円	50件、864百万円

#### シンジケートローンの実績(融資団として参画)

14年度末	15年度末	16年度末
1件、500百万円	9件、3,200百万円	18件、12,772百万円

#### 私募債

14年度末	15年度末	16年度末
実績なし	1件、200百万円	12件、2,200百万円

## 特色ある具体的取組み

「沖縄金融特区証券化プロジェクト」に基づき、県内 2 行を幹事とした「全国版 CLO 構想」を発表。全国地銀の地域集中リスクの分散を図ることを大きな目的とし、現在、全国参加表明地銀と共に構想実現に向け協議を行なっている。

## 2 金融機関の取組みに対する評価及び今後の課題

### (1) 創業・新事業支援機能等の強化

#### 金融機関の見方

目利き研修や企業再生関連カリキュラムを既存研修に組み込んで実施した結果、目利きや企業再生に関する行員の意識は着実に高まっている。今後は、企業の技術力や将来性を的確に判断できる審査能力のさらなる引上げが課題である。

#### 利用者の見方

新事業支援は、事業の発見と積極的な取組みが必要であり、単なる学習に終始してはならない。

### (2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化

#### 金融機関の見方

会員企業に対する勉強会、セミナー、ビジネスマッチング等の情報発信は概ね計画どおりに実施した。今後は、具体的な実績につながるよう情報収集・勉強会等を継続する。

#### 利用者の見方

経営相談・支援は借り手とのコミュニケーションの強化により、ニーズの早期把握が促進され、双方の業務改善に役立ちつつあるが、更なる向上が必要である。

### (3) 早期事業再生に向けた取組み

#### 金融機関の見方

外部専門家等との連携のもと、事業再生ファンド及び中小企業再生支援協議会の活用にも積極的に取組んだ結果、再生スキームに関するノウハウの構築が図られた。今後は、当該ノウハウを行内全体に還元し、全体的な取組の強化・定着化を図るとともに、再生支援に関する人材育成を行っていく。

#### 利用者の見方

消費貸借だけでなく、ファンド的機能を備えかつ経営コンサルティング等の業務を行なってほしい。

### (4) 新しい中小企業金融への取組みの強化

#### 金融機関の見方

スコアリングモデルを活用した融資商品を販売し、「担保・保証へ過度に依存しない融資」については、一定の成果が得られた。今後は、融資実績データをもとに、自動審査スコアリングモデルの検証を実施し、融資条件の見直し及びスコアリングモデルの一層の精緻化を諮る必要がある。

#### 利用者の見方

キャッシュフロー認識の強化により、利益 = キャッシュフローの認識が貸し手、借り手の双方に浸透してきている。

### **(5) 顧客への説明態勢の整備、相談・苦情処理機能の強化**

#### 金融機関の見方

関連規定の整備及び研修について予定通り実施し、説明態勢強化が図られた。今後も引き続き、研修等において役職員の説明能力強化を図る。

#### 利用者の見方

適用金利の説明責任や融資審査の迅速化、融資実行の有無についての内容説明は利用者保護の重要課題である。

### **(6) 地域貢献に関する情報開示**

#### 金融機関の見方

経営内容や地域貢献の状況等についての情報開示の充実を図るとともに、分かりやすい情報の積極的な提供を推進してきた。引き続き、内容の充実に努め、プレス発表、ディスクロージャー誌、ホームページにおいて開示する。

#### 利用者の見方

ディスクロージャー誌をはじめ、利用者に分かりやすい情報提供を行なってほしい。

## **3 金融機関の取組みに対する評価及び今後の課題(総括)**

#### 金融機関の見方

機能強化計画については、概ね計画どおりに進捗できたものと評価するが、平成17年度以降も新アクションプログラムへと取組みを継続し地域密着型金融の一層の強化に努める。

#### 利用者の見方

経営相談・支援や中小企業への取組みの強化など一部には効果が現れてきているが、全体的な取組みについては、一層の強化が望まれる。